

大道理かわら版 むくろじ

発行元
大道理夢求の里交流館
運営協議会
TEL: 0834-88-1830

平成28年
10月1日号
(No.16)



大道理地区の世帯数と人口	
世帯数	193世帯
人口	397人
男性	182人
女性	215人
高齢化率	53.4%
(平成28年8月31日現在)	

お弁当配食で安心安全を届ける！ 大道理ほたる工房

大道理地区で採れた米、野菜を使い、食品添加物を一切使わない安心安全なお弁当作りをされている「大道理ほたる工房」さん。平成二十七年二月に営業を始められて一年半が過ぎました。加工事業を立ち上げられたきっかけ、思い、それからお弁当作りの中で感じられていることや大道理の皆さんへの思いなど、お話を聞きしました。



ほたる工房の前で 大道理ほたる工房の皆さん

営業開始からの現在まで

『ほたる工房は十五人で、お弁当作りをしています。それまでは沢山のお弁当を販売用に作る経験をしたことがない方たちばかりなので、最初は五人で作っても時間が足りないと感じていましたが、今ではだいぶ慣れてきたのか、手際良く作れるようになりました。少ない人数でも時間内にお弁当作りができるようになりました。』
現在、月、水、金、と週三日お弁当づくりをしています。特別注文が入らない時には、だいたい五百円弁当を四十個弱作っています。



▲朝9時過ぎ。盛り付けをされています！

決まったお客様として、周南市の観光案内所「まちのポルト」さんと大道理地区と隣の長穂地区のお一人暮らしの方へお届けしています。「まちのポルト」でまんかい弁当を買って食べてみて、



▲完成したまんかい弁当です！

ほたる工房を立ち上げたばかりの頃は、まだお弁当の注文が無く、道の駅「ソレイネ周南」さんにお弁当を置いてもらって販売したり、地区の自治会など集会用のお弁当をご注文頂いたりといった形で販売していました。口コミで評判が広がり、現在、注文を沢山頂くようになりました。

まちのポルトさんには、お世話になってる美容師さんの娘さんが観光案内所に勤めておられることもあって、去年「お弁当を出してみませんか？」と声をかけて頂きました。最初は毎週水曜日、十五個お届けしていましたが、段々と注文の個数や頻度が増え、現在は、月、水、金の週二日、二十五個のお弁当をお届けしています。

ご年配の方へのお弁当配食の意義



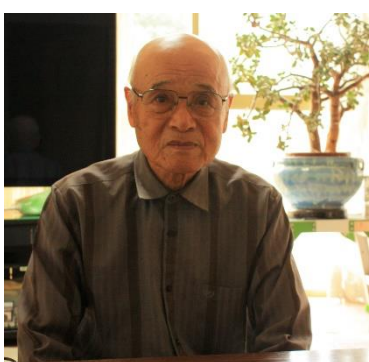
▲おかずのみの400円弁当です

お一人暮らしの方へお届けするお弁当については、昨年長穂地区の民生委員の方から声をかけられて、月、水、金曜日と配達を始めた。五百円弁当と四百円弁当の二種類

現在は大道理地区、長穂地区のお一人暮らしの方や昼間一人で過ごされるご年配の方へお弁当をお届けしています。一人で暮らしておられる方は、一日誰ともお話しされないこともあると思います。お弁当を配達する時、少しでもお話しして、その方の気晴らしになれば良いなと思っています。お弁当を配達するということは、お一人暮らしでおられる方の安否確認もできるという側面もあって、お弁当をお届けした時「お変わりありませんか？」とお声がけしています。お弁当を頼んでおられる方の車がご自宅にあっても、どこにも姿がなかった時には気になって、夕方再びその方をお訪ねした時にはおられたので安心した、ということもありました。

配食を利用されている方の思い

ここで、独居若しくは日中お一人でご過ごしおられ、お弁当配食をご利用されている方からお聞きした話をご紹介します。



▲大道理 大久保地区の山田さん

大道理 大久保の山田正晴さんは、奥様が入院されるので、ご自分で作られる食事はバランスが偏って来たところから、ほたる工房の四百円のお弁当を月、水、金曜日と注文されるよう

になりました。「家内が元気だったころは、食事を作ってくれていたもので(バランスの取れた食事が摂れて)良かった。家には男ばかりなので助かります。地元でこういった配食をしてくれる仕組みがあつて良かった。もしなかったら困っていたと思います。」と、お話し下さいました。



▲大道理 中村地区の原さん

大道理 中村地区の原幸雄さんも今年五月からほたる工房のおかずのみの四百円弁当を注文されています。定年後に事故をされてから利き手に痛みとしぶれが出て、ご自分で調理出来なくなりました。

他にも、糖尿病の持病を抱えておられて、食事に気を付けられないといけない生活の中で、大道理をよくする会の土田友己会長から「ほたる工房」のお弁当配食の話を聞いて、月、水、金とお弁当を注文されるようになりました。お米は自分で炊くことが出来るので、「ほたる工房の四百円弁当は量も丁度よくて良い。」というご感想や、「お弁当の配達の際に声をかけて頂き、心配して頂いています」というお話など聞かせて下さいました。

始まりは夢プラン、芝桜まつり

ほたる工房立ち上げのきっかけについてお聞きしたところ、「初めは、お弁当作りの加工事業をすることになることは予想していませんでした。大道理をよくする会の経済部で、漬物作りなどの加工品づくりをする時に、話をしながら皆で作っていたことが楽しく、大道理地区でこういう感じのことが出来たらいいなという思いはありました。それから平成二十三年から芝桜まつりが始まること、来られたお客様に食事を提供しようということになりましたが、うどん等の軽食をお出ししようにも、加工所がないと出せないため、「そういうものがあつたらいいね。」ということになりました。



▲ワークショップの様子です

ワークショップで集まって、話し合いながら進めていきました。加工事業を始められた理由として、私たちが年齢を重ねれば自分で食事作りが出来なくなる日が来るかもしれない。そうなった時に地元で配食してくれるお弁当加工事業の仕組みが

出来れば、皆が助かる、ということも大きかったです。また、皆が集まって話をしながらお弁当作りが出来れば、それが生きがいに繋がります。このことがほたる工房の立ち上げへと進む原動力になりました。

みなさんのご協力のお陰で完成!

ほたる工房の施設については、市、県の助成金と、大道理地区の皆さんの寄付のおかげで設備が整い、加工所が出来上がりました。



▲ほたる工房内観 お弁当作りを終えて、後片付けをされています

加工所整備事業は、大道理地区で策定した夢プラン取り組みのうちの一つで、整備資金の寄付集めを皆さんが協力して下さいました。私たちの力だけでは立ち上げることは出来ませんでした。それから地域おこし協力隊の中村さんの尽力がとても大きかったです。

お弁当作りで大変だったこと



▲お弁当をこれから配達されます

お弁当を作ってお届けする事業は、まず時間通りにお届けしないといけないことが大前提になります。約束の時間に間に合わず、お客様に謝ったということがありました。それから、いつもご注文下さる方が飽きない献立作り

には頭を悩ませます。ほたる工房のお弁当に使う食材は大道理産の野菜、お米を使っているため、献立作りも、大道理の中で、どのお家で今、何が採れるかを考えながら作っています。半月分の献立を立てるようになっていますが、新しいメニューのものをいざ作ってみると、予想外に時間がかかったり、作り方が難しかったりするので、実際に作ってみないとわかりません。「まちのポート」さんから最初、「お弁当が野暮ったい」といわれたこともありましたが、皆が他の業者さんのお弁当を食べるなど、常にアンテナを張って研究して、話し合いながら工夫していく中で「良くなったね」と言われるようになりました。

私たちの弁当づくりへの思い

「ずっと安心して大道理で暮らせるように」



お話を聞かせて下さった皆さん

大道理ほたる工房のお弁当は、大道理産の野菜と米を使って、美味しく安心、安全を心掛けながら作っています。最初の頃は苦情の声も頂きましたが、現在、沢山の方にご注文頂くようになりました。お弁当を食べた下さった方から「美味しかったよ」と言われることが、私たちは一番うれい事です。高齢や独り暮らしをされている方への配食等、地元の方が年齢を重ねた時、安心して大道理地区に住み続けることが出来、少しでも楽に生活できるようにサービスを提供していきたいです。そのためにも、ほたる工房のメンバーを増やしてこれから先も、継続していける仕組みにしていきたいです。そしてこれから、お弁当の配達だけでなく、月に何回か、生活交通「もやい便」などを利用して頂くなどして、地域の方が集まって食事が出来る食堂のような形で食事を提供する事業もしていきたいと考えています。

ひとり はつらつ? 大道理子

沖墨崇信 せうしん(7歳)

むくろじの中で地域の方を紹介する「ひとり」のコーナーで、これまでご紹介してきた方々は、長い年月かけて培われた熟練の技を持つ方などのご紹介が多く、子どもさんの登場は今回が初です。「龍豊寺の子どもさんは、空手を始めてまだ一年くらいだけど、県大会で上位の成績を収められている」といっただけ、県大会で上位の成績を収められている、という話をお聞きして、どんな子どもさんなのか是非お会いしてみたくなくなり、龍豊寺さんを訪れ、話をお聞きしました。



沖墨崇信(おきずみ せうしん)君。(7歳) 周南市立沼城小学校 二年生。平成二十七年五月から空手を始め、今年八月には全国大会に出場されました!

「頭で分かっているけど、それを実践できるかどうかは別。体を使って汗を流してみても初めて分かることがあるから、何でも良いのでスポーツをさせたかった」というお父様(龍豊寺ご住職)の子どもさんへの思いもあり、崇信君が小学校に上がった昨年五月から須々万の空手教室に通い始めました。最初は全然勝てず、負けて悔し泣きをしていたそうです。空手は「形」と実際に相手と闘う「組手」とがあり、「組手」に出場する同年の子どもさんの中で、一番身長の高い崇信君の体型を活かした闘い方をすれば、勝てるようになると思えたお父様からのアドバイスに沿って練習していくうちに実力を付け、強くなっていった崇信君。今年から試合に出場し始め、初出場の周南大会で優勝しました。以来出場している県大会では二位になり、東京で開かれた全国大会に出場しました。練習は週三日から四日、一回の練習時間は、二時間から多い時は四時間されています。崇信君自身「こうしたら勝てる」と考えたことを試しながら、練習、実践しているのだそうです。練習では年上で、体格も違う中学生と対戦することがあって、親御さんの目から見ると「怖いと感じるのではないかとおっしゃいますが、楽しく練習されているということでした。試合はだいたい月に一度のペースであり、「目標は県大会一位になり、来年もまた全国大会に出場すること」です!

大道理をよくする会からのお知らせ

大道理地区福祉大運動会

日時: 10月23日(日) 9時~12時
場所: 大道理夢求の里 交流館運動場

★どなたでも参加できる競技を考えています。お楽しみ抽選会もあります。ご近所お誘い合わせて、多数ご参加お願いします!

夢求の里交流館からのお知らせ

3/サロンのお知らせ

日時: 10月12日(水) 13時30分~16時
場所: 大道理夢求の里交流館 大会議室
対象者: 男女年齢問わず どなたでも歓迎
備考: ご希望の方は、送迎をいたします

サロンの誘い

日時: 10月26日(水) 10時30分~16時
場所: 大道理夢求の里交流館 大会議室
対象者: 男女年齢問わず どなたでも歓迎
備考: ご希望の方は、送迎をいたします
★午後三時頃 道の駅ソレーネ周南「移動販売車」来館予定です!



編集後記

雨の降らない暑かった八月とは一転、台風が複数個日本列島に上陸し、雨続きの九月となりました。今年仲秋の名月も雲に隠れて拝めず。九月も二十日過ぎると朝夕すっきり寒くなり、今年も我が家の炬燵はひっそり出動の時期を窺っています。日中の気温も下がりが、スポーツの秋が今年もやって来ましたが、今回の「むくろじ」はスポーツの秋にも因み、空手をされている小学生の沖墨崇信君のことをご紹介しました。楽しくさいらだけなく、苦しさもあると思いがすが、与えられたことだけでなく、どうすれば強くなれるかを自分で考える練習、実践に取り組んでいるというお話に「凄いなあ」と感じました。去年、芸術の秋、スポーツの秋で新しいことに挑戦したいと思いましたが、あれから何が前へ進んだかと自問してみても、ノルディックウォーキングのポールを購入したものの地元での教室に参加しただけで、後は「暑い」「寒い」と理由を付けては積極的に活用していない状況で、これといって去年から変化の無い私です。写真が上手くならないのも、陶芸での進歩がないのも、器用不器用、センスの問題はあっても、時間を費やしていないという第一段階での努力不足が大きく、崇信君の空手への姿勢を聞きながら「耳が痛い」心持になりました。閑話休題、今回の全面特集は「大道理ほたる工房」さんです。立ち上げのきっかけとなった皆さんの思い、工房が出来上がるまでの歩み、稼働し始めてから現在までのこと、これからのことについてお話をお聞きすることが出来、今回ようやくご紹介できました。お弁当の配食を利用されている大道理地区内の方からのお話もお聞きして、地域の食材を使って、安心して食べることの出来るお弁当を、必要とする方に提供する仕組みを地域の皆さんで作って運営されていることを目の当たりにさせて頂きました。交流館から近い距離にあることもあり、再々私がお訪の妨げになつたと思いましたが、沢山の話を聞かせて下さり、ありがとうございます。心にも身体にも優しくお弁当作りを今後ともどうぞよろしくお願います!(山縣あきこ)